

教 育

「中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～」と「岡山市地域協働学校」を2つの柱として

6つの政策で自立に向かって成長する子どもを育成します

政策1

主体的な学びの推進による
確かな学力の育成



- 一貫した学びの推進
- 豊かな学習資源の活用推進

注目!

- ★学力向上に向けた授業改善を進めます
- ★小学校での外国語活動・外国語科や中学生の英語力の向上等のための取組を進めます
- ★学校支援ボランティアの活動を支援します

政策3

健康教育の充実による
健やかな体の育成



- 体力づくりの充実と
安全教育の推進
- 食育の推進

注目!

- ★運動習慣や望ましい食習慣の定着に向けた取組の研究を進め普及を図ります

政策5

学校園の教育環境の充実



- 教職員の資質能力の向上と
支援体制の充実
- 安全・安心で快適な
教育環境の整備

注目!

- ★教職員の力量を高める研究・研修の充実を図ります
- ★教職員の子どもと向き合う時間の確保とワークライフ
バランスを実現します

政策2

人や自然、文化との関わりを
通した豊かな心の育成



- 思いやりの心や規範意識、
向上心の育成
- 岡山を愛する心と国際感覚の育成

注目!

- ★道徳の教科化に向けた取組を進めます
- ★ESDの視点を生かした学習のより一
層の充実を図ります

政策4

一人一人の育ちを支える
指導・支援の充実



- 一人一人を大切に
集団づくりの推進
- 一人一人の課題に応じた
きめ細かな支援

注目!

- ★いじめや暴力行為、不登校等の未然防止と早期解決
に取り組めます
- ★障害のある子ども一人一人の特性に応じた指導・
支援の充実を図ります

政策6

家庭、地域社会の
教育環境の充実



- 家庭の教育力向上への支援
- 地域社会の教育環境の充実
- 家庭、学校園、地域社会の
協働体制の確立

注目!

- ★地域協働学校の取組の一層の充実を図ります
- ★事業者との連携を深め市民協働を進めます



岡山市が目指す「市民協働の人づくり
のイメージ」と「6つの政策」の関連
を紹介するんだワン!

自立に向かって成長する子ども
(自立する子ども)

- ・前向きに行動することができる
- ・目標に向かって努力することができる

自分を高める

- ・悪いことは悪いと言え、正しい行動ができる
- ・自然や美しいものに感動することができる
- ・思いやりや感謝の心を持ち、ありがとう
と言える

豊かな人間性

- ・全ての命を大切にすることができる
- ・認め合い、助け合うことができる
- ・自然や環境のことを考えて生活できる

共に生きる

縦のつながり
中学校区を単位とした
学校園一貫教育
岡山型一貫教育
教育委員会リーダーシップのもと
中学校区と「目指す子ども像」を
共有し、共通の指導方針をもち、貫いた教
育を行う
互いの学校園の良いところを取り入れる

政策1から4はそれぞれ
が「自立」の3つの要素
に結びついているよ。



政策5と6は教育環境を
整えることにつながって
いるんだね。

行政

学校園

事業者

家庭

横のつながり

岡山市地域協働学校

地域社会

- ・中学校区を一つの地域と見なし、学校園、家庭、地域
社会がそれぞれの役割を果たす
- ・保護者、地域住民が学校運営に主体的に関わる

岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例
(岡山っ子育成条例)

※各政策の特徴的な取組を **注目!** で示しています。



これからの岡山市の学校のあるべき姿

— 次期の教育大綱に向けて —

資料1

令和2年5月13日
教育委員会

現行の大綱における取組について（検証）

学力の向上

< 目標 > 偏差値 (小) 51 (中) 50

	(H28)	(H29)	(H30)	(R1)
(小)				
国語 A	49	50	50	51
国語 B	50	51	50	
算数 A	50	50	49	50
算数 B	50	50	50	
(中)				
国語 A	48	49	50	50
国語 B	48	49	49	
数学 A	49	49	49	50
数学 B	48	49	49	

ほぼ到達

○授業改善が定着

○家庭学習が活発化

継続すべき取組

- ① 学力アセスの活用
- ② 「授業これだけは」の活用
- ③ 校長の参観 等

問題行動等の防止及び解決

< 目標 >

暴力行為 (中) 9.5件/1000人以下
不登校出現率 (小) 0.42%以下

(暴力行為) 中学校 1,000人当たり

(H27) (H28) (H29) (H30)
18.0 → 15.8 → 10.9 → 19.0

(不登校) 小学校 %

(H27) (H28) (H29) (H30)
0.57 → 0.64 → 0.71 → 0.91

未到達

○小学校の暴力行為は減少

×中学校の生徒間暴力が増加

×新規の不登校児童が増加

改善に向け必要なこと

- ① 不登校の具体策の徹底
 - ・早期対応
 - ・情報共有
- ② 中学校区の連携強化

教育委員会の決意



学力・不登校に関して

- さらなる学力の向上を目指し、各校の授業改善を進めます。(子どもが考え、表現する活動を重視)
- 不登校の新規出現数の減少に向けて、早期対応等の具体的な対策を示し徹底します。

これからの時代に求められる資質・能力に関して

- グローバル化の進展の中で、コミュニケーション力や文化の多様性を尊重する姿勢を育むとともに、英語教育を推進します。
- 情報化の進展の中で、情報活用の実践力や情報モラル等の力を育みます。

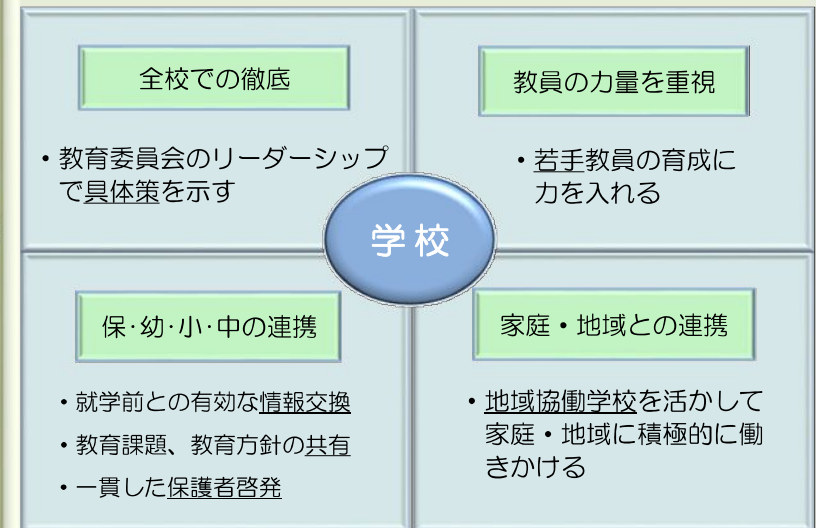
具体策

資料2

資料3

資料4

これからの岡山市の学校のあるべき姿





これからの岡山市の学校教育について

課題

変化の激しい時代を生きる子どもたちをどう育成していくか

目標

「さらなる学力の向上」と「不登校の未然防止」

- 全国学力・学習状況調査の偏差値 小、中ともに51以上 (H31 小国語51、算数50 中国語50、数学50)
- 新規不登校児童生徒(小中合計)の出現率の低下 0.47%以下 (H30 0.74%)
<児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査>

具体策

取組1 さらなる学力の向上(自分で考え、表現する力の向上)

- 教員は、児童生徒が意見を交流する活動を取り入れた授業づくりを進める。
 - ・一つのテーマに基づいて、児童生徒同士が議論する授業を行う。
 - ・ICTを効果的に利用して、自分の考えを発表する授業を行う。
- 学校は、年に1回以上授業を公開し、授業づくりについて協議する機会を設ける。
- 教育委員会は、年に1回以上全学校を訪問し、授業づくりについて適切な指導助言を行う。

取組2 不登校の未然防止(新規出現数の減少)

- 学校は、連続欠席3日で家庭訪問をする。
- 学校は、不登校が理由の年間欠席が10日以上の子供生徒について支援計画を作成する。
- 学校は、中学校区での異校種の連携を図るために、年間3回の協議の機会を設ける。

学校のあるべき姿

全校での徹底

教員の力量
を重視

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携



英語教育の推進について

令和2年5月13日
教育委員会

グローバル化が進展する中で、児童生徒のコミュニケーション力や文化の多様性を尊重する姿勢を育むとともに、英語教育を推進します。

現在の取組

- 全小・中学校に外国語指導助手（ALT）を派遣
- 研究指定校による公開授業

課題

- 英検3級以上相当の生徒の割合（中3）…41.1%（H30）
（全国42.6%）
- 全国学力・学習状況調査…偏差値49（中3）



目標

中学3年生の英語力（英検3級以上相当）… 50%以上

全国学力・学習状況調査の偏差値 … 50以上

授業の半分以上英語を使った活動を行う教員の割合…100%

教員の英語力（英検準1級以上）…50%以上

具体策

- 英語担当教員は、年に2回、異校種の英語の授業を見に行く。
- 教育委員会は、英語に関する教師の指導力向上の研究を学校に依頼し、その成果を広めるために公開授業及び協議を行う。
- 教育委員会は、英語担当教員の英会話を重視した研修等を実施するとともに、検定試験の受検機会を増やす。

学校のあるべき姿

教員の力量
を重視

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携



教育の情報化について

情報化の進展の中で、情報活用の実践力や情報モラル等の力を育みます。

現在の取組

- 「岡山市立学校における情報化基本指針」を策定
- 1人1台のタブレットPCの配備を推進

課題

- 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合が全国平均以下
- 授業にICTを活用して指導することのできる教員の割合が全国平均以下



目標

- 授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する児童生徒の割合 <全国学力・学習状況調査>
H31 小5.6% (※10.4%) 中3.8% (※7.0%) → 小、中ともに100% ※全国平均
- 授業にICTを活用することのできる教員の割合 <学校における教育の情報化の実態等に関する調査>
H30 小・中・高67.6% (※69.7%) → 100%

ICTを
活用した
魅力ある
授業

具体策

- 教員は、児童生徒が積極的にタブレット等を活用し、主体的に学習することができる授業づくりを進める。
- 学校は、年1回以上ICTを活用した授業づくりについての研修を行う。
- 教育委員会は、ICTを活用した授業づくりについての好実践例をまとめたICT活用事例集を作成し、周知する。

学校の
あるべき姿

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携

教員の力量
を重視

全国学力・学習状況調査の偏差値

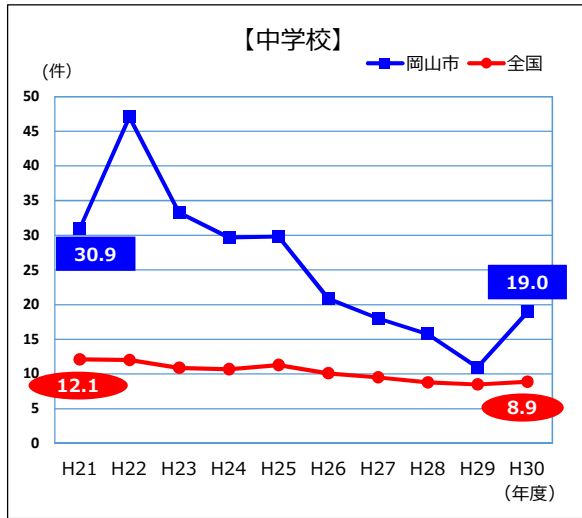
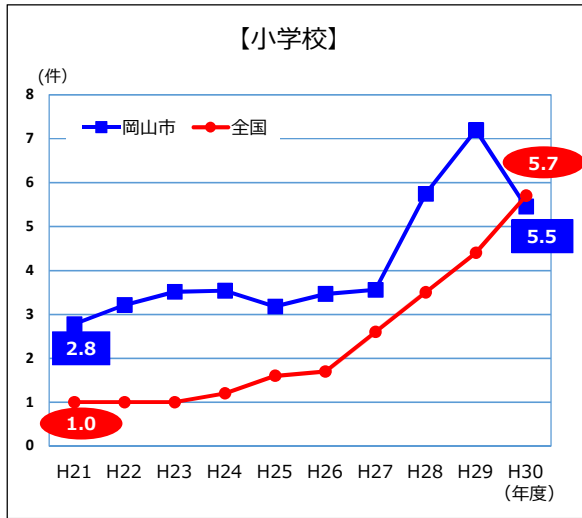
年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	50	51	50	51
小・算数	50	50	50	50
中・国語	48	49	49	50
中・数学	48	49	49	50

※H28～H30の偏差値については、B問題（主として「活用」に関する問題）の結果

全国学力・学習状況調査の無回答率の対全国比

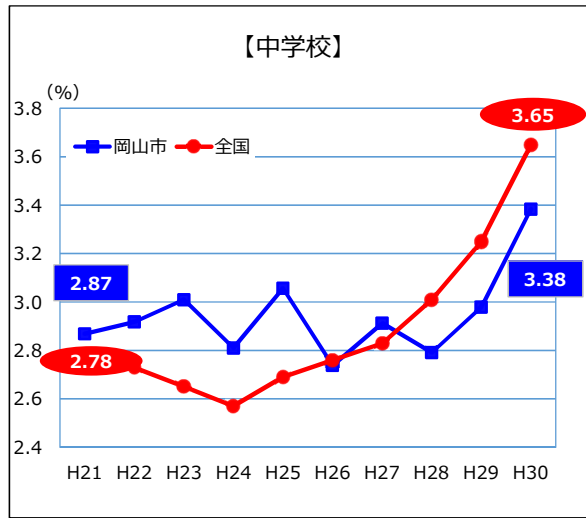
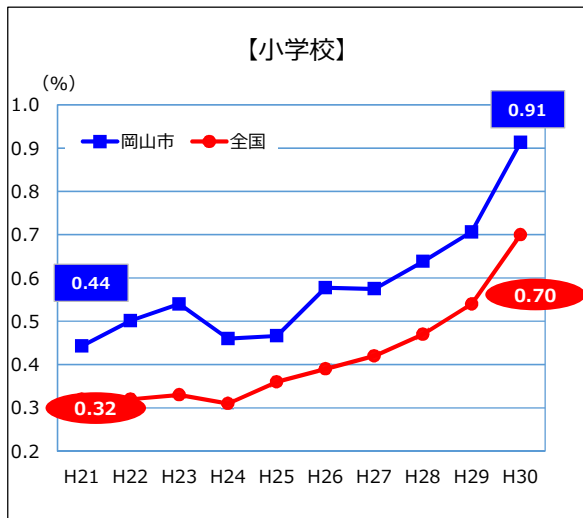
年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	1.1	1.0	0.9	1.0
小・算数	1.1	1.0	0.9	1.0
中・国語	1.7	1.4	1.5	1.4
中・数学	1.3	1.1	1.2	1.2

児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数



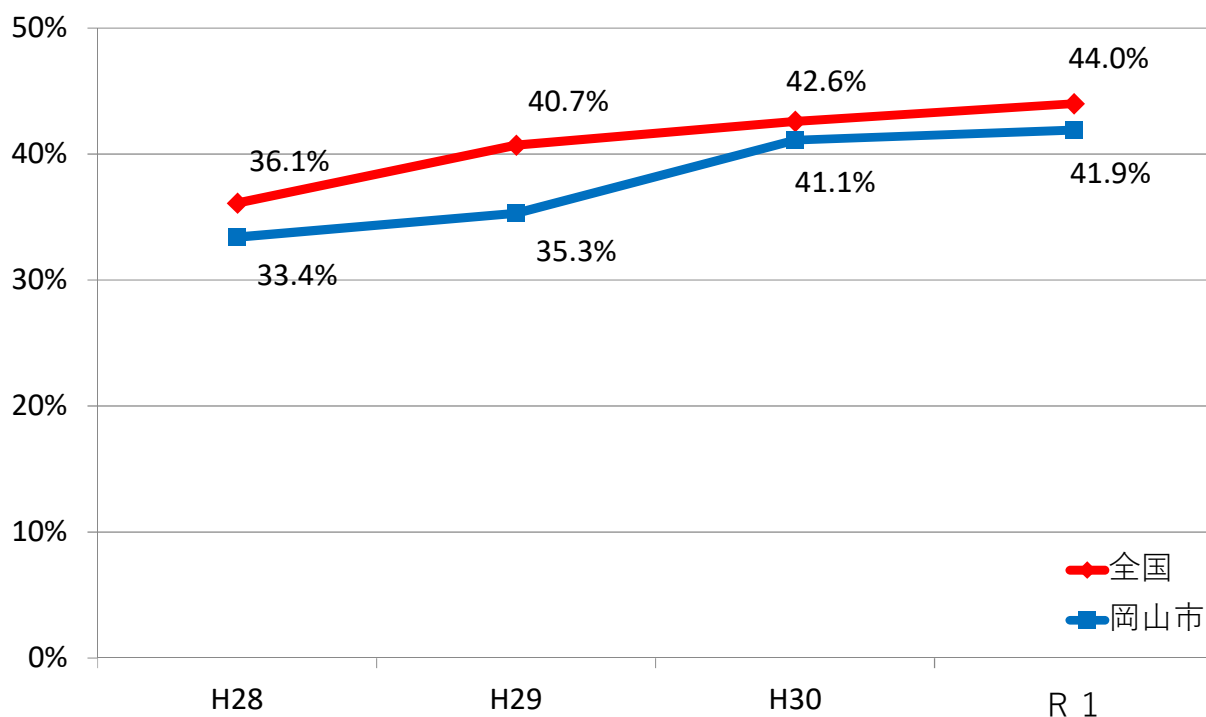
資料：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

不登校児童生徒の出現率



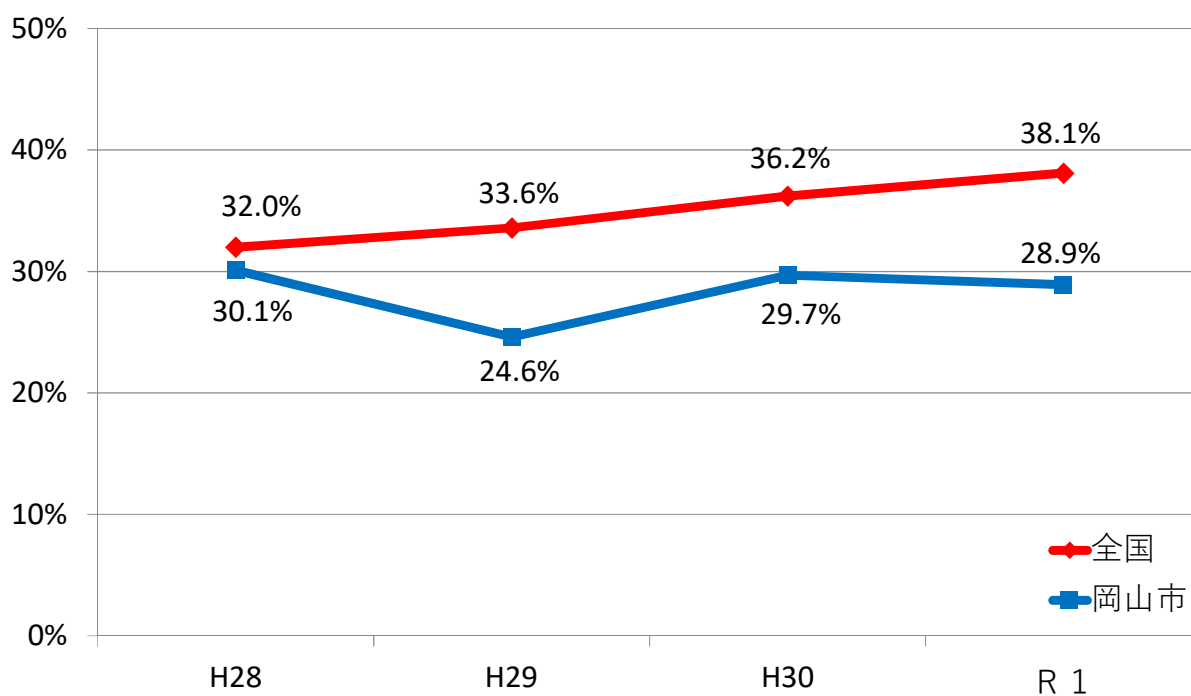
資料：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

生徒の英語力（英検3級以上相当の生徒の割合）



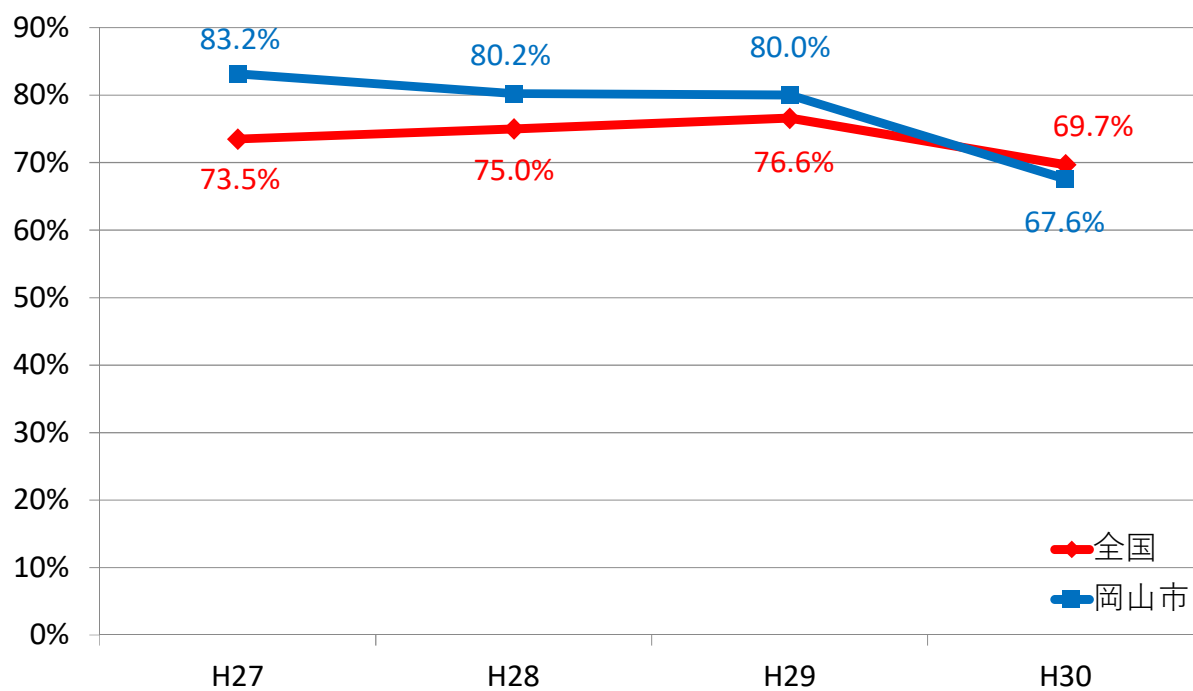
資料: 英語教育実施状況調査(文部科学省)

英語担当教師の英語力（英検準1級以上相当の教師の割合）



資料: 英語教育実施状況調査(文部科学省)

授業中にICTを活用することができる教員の割合



資料：学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）